

平成29年度第1回印西市スポーツ推進審議会 会議録

1. 日 時 平成29年5月12日（金）午前10：00～午前11：40
2. 場 所 松山下公園総合体育館 会議室
3. 出席委員 青木和浩委員（会長）、五十嵐靖宏委員（副会長）、青柳豊子委員、早野敏委員、飯塚憲二委員、高梨峰子委員、三浦徹委員、本郷美代委員、秋山剛委員
寺島光浩委員
4. 欠席委員 なし
5. 事務局 スポーツ振興課 川村課長、村越主査、佐藤主査補
教育総務課 高石参事、吉林副主幹
6. 傍聴者 なし
7. 議 事 (1) 平成29年度スポーツ事業の計画について
(2) 教育振興基本計画について
①最終素案について
②今後のスケジュールについて
(3) その他
9. 議事録 要点筆記

議事

～事務局より（1）に関する資料を説明。（1）については承認。

次に（2）印西市教育振興基本計画の説明。以下、（2）の議論要約。

会 長：基本理念案として「だれもが輝き ともにばたく いんざいの学び」と代案「ともに生き、光り輝く、いんざいの学び」「支え合い、ともに輝く、いんざいの学び」が記載されている。これは修正できるのか。

事務局：委員のご意見を伺い、必要であれば修正する。

会 長：6月16日に策定委員会がある。そこに、スポーツ推進審議会が出た案を提案することになる。前回の策定委員会でも基本理念について意見が出ている。子どもにも高齢者にも分かりやすく、覚えやすいものがよいなどの意見もあった。

委 員：基本理念は、誰でもわかるように平仮名にしている。基本方針1は「学校・家庭・地域が連携強化し、未来を拓く子どもを育む教育の推進」と漢字が使われているが、こども

平仮名にしてはどうか。

会 長：そこは検討していただきたい。なお、前回のスポーツ推進審議会の、計画の具体的な内容について強弱がない、評価をきちんと後ろの頁に掲載してほしいといった意見は、今回の最終案に反映されている。また、スポーツの目標指数の根拠について前回は質問が出ていた。

事務局：総合計画との整合性を図る必要があることから、総合計画の目標指数を本計画の目標指数とした。しかし、スポーツ施設も飽和状態になっており、開催場所がなく、大会を増やすことも難しい。そのため、平日の利用率を上げるなどにより、「参加者を15%増やす」という目標指数を考え直していかなければならないと思っている。

委 員：数字だけでは伝わらないため、目標指数達成に向けた具体的な活動を記載した方がよい。例えば「市民スポーツ大会の参加者数は、各団体が支援を行う」「スポーツフェス・スポーツ教室参加者数は、参加種目を増やす」「スポーツ施設利用者数は、利便性をあげる」「スポーツ指導者数は、スポーツ指導者の育成を行っていく」などの文言を入れることで目標指数の根拠が明確になる。

会 長：目標設定の考え方は、事務局で検討いただきたい。

委 員：庁内体制の充実なども時間がかかるため、計画の推進体制と計画の進行管理を中心に議論を進めた方がよい。

事務局：これまでは学校教育分野の計画だけだったが、本計画は学校教育、スポーツ、生涯学習、文化芸術の4つの分野を一体化している。新たな内容が少ないという意見もあるが、市としては現行事業の充実を図りつつ、分野横断的なリーディング施策の展開が大事だと捉えている。庁内体制はまだ調整できていないが、より充実させていくことも大事だと考えている。

委 員：我々は昨年度から議論しているため、計画内容は分かるが、市民に計画を公表した場合、すぐに理解が得られるとは思えないため、何をやるかを明確に伝えていく必要がある。

会 長：いろいろなご意見が出た。ここからは、委員の方々に一言ずつコメントをいただく。

委 員：基本理念の「ともに輝き」だが、学校の現場でこの文言をよく聞く。子どもたちにとっては馴染みのあるわかりやすい言葉だと思う。

委 員：基本理念は学校の校歌のような印象を持った。小学1年生から読め、まとまっていると思う。そこからひも解いていく計画案がよいものになればよい。

委 員：前回案はアンケート結果が表組で見やすかった。最終案は結果が文章化されているが、表組の方がインパクトもあると感じる。

委員：基本理念は、分かりやすく覚えやすいのでよい。

委員：基本理念は、子どもたちの誰もが笑顔で輝いてほしいという思いが込められていて、とてもよい。

委員：今年度から委員になり、初めて資料を拝見してすごい計画だと思った。これだけの計画が進行するのは大変だが、印西市の子どもたちの未来のために、確実に進めていってほしい。

委員：基本理念は、子どもを中心に親も子どもみんなが対象になっている。また、4つの分野が統合して、はばたくという意味もあるのでよい。

総合型地域スポーツクラブに関しては、イメージがわからない。テニスクラブには400～500名が加入しており、初心者もベテランも楽しみながらテニスをやっている。テニスをはじめ、サッカー、卓球、空手、芸術などをより深く経験できるというのが総合型地域スポーツクラブのイメージだが、例えばテニス連盟がどのように連携していったらいいのかわからない。多様なスポーツから個人に適したスポーツを選べるチャンスを与える機能を持つ総合型スポーツクラブがどのような活動を展開するかを議論したい。

委員：牧の原スポーツクラブを作る時に体育指導員だった時に、体育指導員が指導者となってスポーツを教え、地域に広げて言ってくださいと言われた。市が主体となり、いろいろな競技の指導者を呼んで総合型地域スポーツクラブを運営していく。スポーツだけではなく文化も同じだ。こうしたやり方がベストだと思う。

委員：いまの発言のとおりだと思うが、印西市の総合型地域スポーツクラブのイメージが人によってバラバラだと思う。

委員：テニスなどはやりやすいと思うが、空手の場合にはいろいろな流派があるため、ひとつの流派だけが入っても、その流派の形しかできないため、難しいところがある。

委員：流派毎ではなく、卓球、バドミントンなどのいろいろなスポーツが体験でき、身体を動かせるところが総合型地域スポーツクラブという位置付けが望ましい。ひとつのスポーツを専門にやるのであれば、テニスクラブに所属すればよいし、空手の流派に入門すればよいのであって、自分の出来る範囲のことをやるというのが総合型地域スポーツクラブであればよい。それが地域ごとに増えてくると、お年寄りも子どもたちもいろいろなことにチャレンジしていけるようになる。

委員：裾野を広げることと、有望選手をつくること、この両方ができるともっとよい。

委員：有望選手を育てるのは専門にやらないとできない。

委員：総合型地域スポーツクラブはあくまでもスポーツ競技の入口でいいと思う。

会 長：いろいろな自治体が総合型地域スポーツクラブを行っているが、実態はケースバイケースだと思う。誰でもが参加できる機会を与えるのが総合型地域スポーツクラブ設立の目的だった。スポーツへのきっかけは総合型地域スポーツクラブとして、それを専門にする場合、各分野の連携が重要になる。小学校や中学校は部活に入ってしまうが、最近、小・中学校の部活の活動時間が課題となっている。活動時間が制約されていくと、地域で活動せざるを得ないという流れになる。今後は国の動向が非常に重要であり、スポーツ庁を中心に全体的に議論を進めていくことになると思う。

委 員：ヨーロッパはどうなっているのか。

会 長：ヨーロッパは基本的に小・中学校の部活動はなく、地域のスポーツクラブに所属している。

総合型地域スポーツは、国内の成功事例をできるだけ参考にして、計画全体をまとめていくという意見も策定委員会に出ていた。総合型地域スポーツクラブに関しても、成功事例を見て、よい取り組みを参考にすることが大事になる。

委 員：総合型地域スポーツクラブのスタート時は、なんでもやってみることだったと理解している。専門的な指導者が集まって総合型地域スポーツクラブに取り組むとよいと思う。福島県を訪問した時に、総合型地域スポーツクラブが立ち上がっていたが、最初はいろいろ試し、その後、好きな競技に移行していく、それが総合型地域スポーツクラブだ、と現地の担当者は話していた。成功させるためには、いろいろな情報を仕入れることが必要だと思う。

委 員：最初に比べ、最終案は非常に見やすくなっている。

会 長：委員の皆さま一人ひとりにご意見をいただいた。素案について、スポーツ推進審議会は了承したということでよいか。

委員一同：異議なし

会 長：今後、気になることがあれば、事務局に連絡してほしい。

事務局：今後のスケジュールは、6月16日に策定委員会を開催、本日の意見を提案する。6月下旬から9月末まで最終素案説明、庁内での各課照会等を行う予定。その後、パブリックコメントを実施し、その結果を整理後、スポーツ推進審議会を開催する予定である。

議事（3）その他について

特になし。

以上

平成29年度第1回印西市スポーツ推進審議会会議録は事実と相違ないことを認める。

平成29年 6月13日

スポーツ推進審議会 会長 青木 和浩

スポーツ推進審議会 委員 秋山 剛